

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

願以此功德 平等施一切
同發菩提心 往生安樂國

御文章

末代無智の在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして阿彌陀佛をふかくたのみまゐらせて、さらに餘のかたへこころをふらず、一心一向に佛たすけたまへと申さん衆生をば、たとひ罪業は深重なりとも、かならず彌陀如來はすくひましますべし。これ

すなはち第十八の念佛往生の誓願のこころなり。かくのごとく決定してのうへには、ねてもきめても、いのちのあらんかぎり、稱名念佛すべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。

聖人一流の御勸化のおもむきは、信心をもつて本とせられ候ふ。そのゆゑは、もろもろの雜行をなげすてて、一心に彌陀に歸命すれば、不可思議の願力として、佛のかたより往生は治定せしめたまふ。その位を「一念發起入正定之聚」とも釋し、そのうへの稱名念佛は、如來わが往生を定めたまひし御恩

報盡の念佛とこころうべきなり。
あなかしこ、あなかしこ。

当流聖人のすすめまします安心といふは、なにのやうもなく、まづわが身のあさましき罪のふかきことをばうちすてて、もろもろの雑行雑修のこころをさしおきて、一心に阿彌陀如來後生たすけたまへと、一念にふかくたのみたてまつらんものをば、たとへば十人は十人百人は百人ながら、みなもらさずたすけたまふべし。これさらに疑ふべからざるものなり。かやうによくこころえたる人を信心の行者といふなり。さてこのうへに

は、なほわが身の後生のたすからんことのうれしきをおもひいださんときは、ねてもさめても南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛ととなふべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。